



鉄のふしぎ? 博物館

■37

磁石につく『寛永通寶』
四文銭を見つけたことから、コインの探検が始まりました。どうして磁石についたのだろうか? 鉄が含まれているのだろうか? たまたまこれ1ヶだけか? たまたまこれ1ヶだけか? 磁石についたのか? 疑問が湧いてきました。インターネットで四文銭を100個購入し、強い磁石でつけてみると3分の1ほどが磁石につきます。少し反応するものを含めると半分以上です。確かに不純物として、鉄

『寛永通寶』探検



古物商から入手した渡来銭。右上から(左)寛永通寶(右)元禄通寶(左)享和通寶(右)文政通寶(左)洪武通寶(右)元寶(左)洪武通寶

衣川製鎖工業・衣川良介社長

画像はカラーと交換しています。

が混入しているようです。

『寛永通寶』が発行されるまで、中世以来の渡来銭がそのまま使われていました。しかし、欠けた銭貨や偽造された不明瞭なものも含まれていて、銭貨を受け取る際に撰銭(えりせん)と、設け銅山は大いに栄え、足尾の町は「足尾千軒」と言われるような発展を見せました。この時生産された『寛永通寶』は、品質がよく庶民に大歓迎され、数年間うちに中世から使われていた渡来銭は市場から姿を消してしまいました。

『寛永通寶』は江戶時代、庶民の生活に直結したお金なのです。年号が替わり寛文年間になって製造された二文銭の表は「寛永通寶」で、裏面には「文」の字が鋳出されています。寛文年間より前に作られたものを古銭の業界では「古寛永」といいます。『寛永通寶』が製造された文久3年(1863年)ま



『寛永通寶』一文銭(文)

で約230年間、『寛永通寶』は断続的に製造されました。その発行枚数は300億枚とも400億枚とも言われ、庶民に親しまれたお金です。

要になります。古い欠けた銅銭や壊れたものも再利用したでしょうから、全てが新しい銅ではないでしょうが大量の銅を使用したことは明白です。江戶時代、日本は世界一の産銅国だったので、鎖国中にもかかわらずオランダへ3600トンと中国へ9000トンの合計で12600トンの銅を輸出しています。どうして、四文銭が磁石につくのか? その原因は精銅技術にあるのではなく、他の要素にあることがはっきりしましたが、その原因は何なのでしょ

【参考図書】

▽銅(ブラス)の歴史(石油天然ガス・金属鉱物試験機構、2006年8月、P.52-54)
▽インターネットII
http://homepage3.nifty.com/sraka/wa/coin/030.htm